

## 経験者採用試験の受験を考えている方へのメッセージ ～採用者の座談会～

経験者採用試験に合格して各府省に採用された方々に、国家公務員を目指したきっかけや試験の準備などについて語っていただきました。

### ～ 参加者 ～

中村絵葉氏 外務省総合外交政策局軍縮不拡散・科学部生物・化学兵器禁止条約室  
(平成27年度外務省経験者採用試験(書記官級))

坂本浩平氏 外務省中東アフリカ局アフリカ部アフリカ第二課  
(平成27年度外務省経験者採用試験(書記官級))

菅 洋平氏 農林水産省生産局園芸作物課園芸生産流通支援班  
園芸生産流通支援対策係長  
(平成27年度農林水産省経験者採用試験(係長級(技術)))

山崎祐子氏 日本政府観光局(JNTO)海外プロモーション部  
シニア・アシスタント・マネージャー  
(平成27年度観光庁経験者採用試験(係長級(事務)))

※ 役職は平成28年5月現在

### 1 国家公務員になろうと思ったきっかけは何ですか？

(山崎氏) 私は旅行会社と区役所での勤務経験があり、今回で二度目の転職となります。前職では旅行商品の開発や、地域に密着した行政に携わりました。近年、外国人旅行者が急増している現状を目の当たりにし、観光行政の重要性を感じるようになり、これまでの経験を生かした仕事ができればと観光庁を志望しました。報道で経験者採用試験の存在を知り、興味を持ったので、人事院のHPをチェックしていました。

(山崎氏)



(坂本氏) 私は任期付職員として外務省にもともと勤務していました。その際、同僚職員から経験者採用試験の存在を教えてもらい、試験の詳細は外務省のHPで確認しました。同じ任期付職員の知り合いで昨年合格した方もいたことから、受験してみようと思いました。また任期付職員としてアフガニスタンにいた時の外務省の上司が非常に尊敬できる方で、そんな方との出会いも採用試験を受けるきっかけになりました。

(菅氏) 私は前職では食品会社に勤務しており、主に食品開発に携わっていました。業務の過程で調べものをしていたところ、農林水産省のHPに辿り着き、経験者採用試験の存在を知りまし

た。ちょうどその頃、特定の専門分野で一企業のために働くよりも、日本全体のためになるような広く大きな仕事がしたいと考えていたこともあり、試験を受けました。

(中村氏) 前職は途上国の開発に関わる仕事に携わっており、働いていく中で国益に資するような大きな仕事ができたらいいなど考えるようになりました。そこで当初は国連の JPO の試験を受けようと思って情報を集めていたところ、その過程で外務省の HP で経験者採用試験のことを知り受験をしました。

## 2 試験のためにどのような準備をしましたか？

(山崎氏) 筆記試験は出題分野が広く、全ての科目を網羅することは難しいので、得意分野に絞って準備をしました。面接や論文対策は今までの職務経歴を振り返って整理をしておきました。

(坂本氏) 人事院が HP で公開している過去問のサンプルを参考にしつつ、試験の配点を確認し、配点の高いところや得意分野を重点的にやりました。また、基礎能力試験に関しては、新卒採用者用の総合職試験の過去問を購入して勉強しました。

(菅氏) 私も人事院が公開している過去問のサンプルを見ました。やはり分野が幅広いので対策が難しいと感じました。今回はとりあえず挑戦してみて、もしダメだったら次に生かそう位の気持ちで受験しました。

(中村氏) 仕事をしながらの勉強になりますので、一般職試験の問題集を購入し、範囲を絞り勉強していました。

## 3 今、どのような仕事をしていますか？ また、前職での経験を現在の業務にどのように活かしていますか？

(山崎氏) 私は今、日本政府観光局(JNTO)に出向し、訪日旅行促進のためのプロモーションを行っています。具体的には、海外メディアを通じて訪日旅行の魅力をアピールしたり、海外の旅行会社が訪日旅行商品を企画するための支援などを行っています。こうした仕事をしている中で、前職の旅行会社で中国に駐在していた経験や、地方公務員としての行政の経験が随所で活かせていると感じます。

(坂本氏) 私はソマリアに対する外交政策の立案や TICADVI の準備に関わる業務をしています。ソマリアの担当者は私一人でもあるため、自分次第で対ソマリア外交に影響がでることもありえ、責任感の大きい魅力ある仕事だと感じています。外務省の任期付職員として採用される前は、経営コンサルティング会社で働いており、日本企業の海外進出支援等を行った経験がありました。こうした民間にいたときの経験や視点が間接的に現職にも役立っていると感じることもあります。

(坂本氏)



(菅氏) 現在、私は主に野菜果物の輸出促進を担当しています。TPP で関税が撤廃されることを機に、国内消費だけでなく青果物を外国でも売り込むべく、各県と調整し戦略を立てています。前職の食品会社では、冷凍食品の開発のため自分でレシピを作ったり、実際に工場に行くなど現場での仕事が専らであったのに対し、今の仕事は限られた予算のなかでどう対策を練るかといった仕事が多いと感じています。こうした違いはあるものの、食品という点では関連性もあり、前職の現場で得られた経験が、やはり現職で政策の企画立案をする上で強みになっています。

(中村氏) 私は生物兵器禁止条約の担当をしております。坂本さんと同様に、私も外務省で唯一の生物兵器禁止条約の担当であり、責任感をもって日々の業務に励んでいます。既に国際会議にも出席させていただきました。民間企業で働いていた時は広報と海外営業をしていたため、日本が弱いとされるロビー活動において、前職で培ったネットワークづくりや発信力が生かしていると思います。

(中村氏)



#### 4 採用される前、国家公務員に対してどのようなイメージを持っていましたか？ 実際に働いてみて、採用される前のイメージとギャップがありますか？

(山崎氏) 入庁前は、国家公務員はとにかく真面目で、職場は皆黙々と仕事をしているイメージがありました。しかし、観光庁は民間からの出向者も多く、民間出身者の私でも溶け込みやすい明るい雰囲気です。

(坂本氏) 私はもともと外務省の任期付職員として働いていたこともあり、入る前とで印象が大きく変わることはありませんでした。ただ、実際に入ってみて外から見ている以上に、官邸や永田町との関係が業務上多いなという印象を受けました。

(菅氏) 入省前の役所に対するイメージは、きっちりしていて、意見も言いづらい場なのではないかと緊張していました。しかし実際は、民間にいた時の考え方を尊重され、上司から意見を求められることも多く、また、分からないことがあったら聞きやすい環境も整っており、風通しの良い職場だなと感じています。民間経験者ということで特別扱いされるのではなく、即戦力として暖かく受け入れてくれました。

(菅氏)



(中村氏) 私も入る前の役所に対するイメージは、保守的、保身的で、典型的な“お堅い”イメージがありました。しかし実際に入ってみて、前例にあまりとらわれない、自由な発想を持っている方が多いように感じます。

#### 5 経験者採用試験等を通じて国家公務員への転職を目指す方々にメッセージをお願いします。

(山崎氏) 経験者採用試験を通じて国家公務員になる道はあまり知られていないと思います。転職を考えている方、また、女性で、一度は出産や育児等で離職したけれども、また自分の経験を活かした仕事がしたいと考えている方、是非、挑戦してほしいと思います。仕事しながらの勉強は大変だと思いますが、頑張ってください。

(坂本氏) やはり経験者採用試験という試験の存在をいろんな方に知って欲しいですね。パブリックセクターにいても民間との関係の深い世界もあり、前職での経験を生かせる場面は沢山あるので、是非国家公務員という道も視野にいれてみてはいかがでしょうか。

(菅氏) 国家公務員は、国を動かす臨場感あふれる大きな仕事に携われます。そうした仕事に興味がある方は是非チャレンジしてほしいと思います。

(中村氏) やりがいや醍醐味を仕事に求める方は国家公務員に向いていると思います。決して楽な仕事ではありませんが、それを凌駕するほどのダイナミックな業務に関わることができるのも国家公務員の魅力の一つだと思います。



座談会の様子(平成28年5月実施)